

平成25年 1月～9月の事故発生状況（速報）

（第1四半期～第3四半期）

（北陸地方整備局発注の直轄工事）

☆事故件数は、第3四半期までで、50件発生。☆

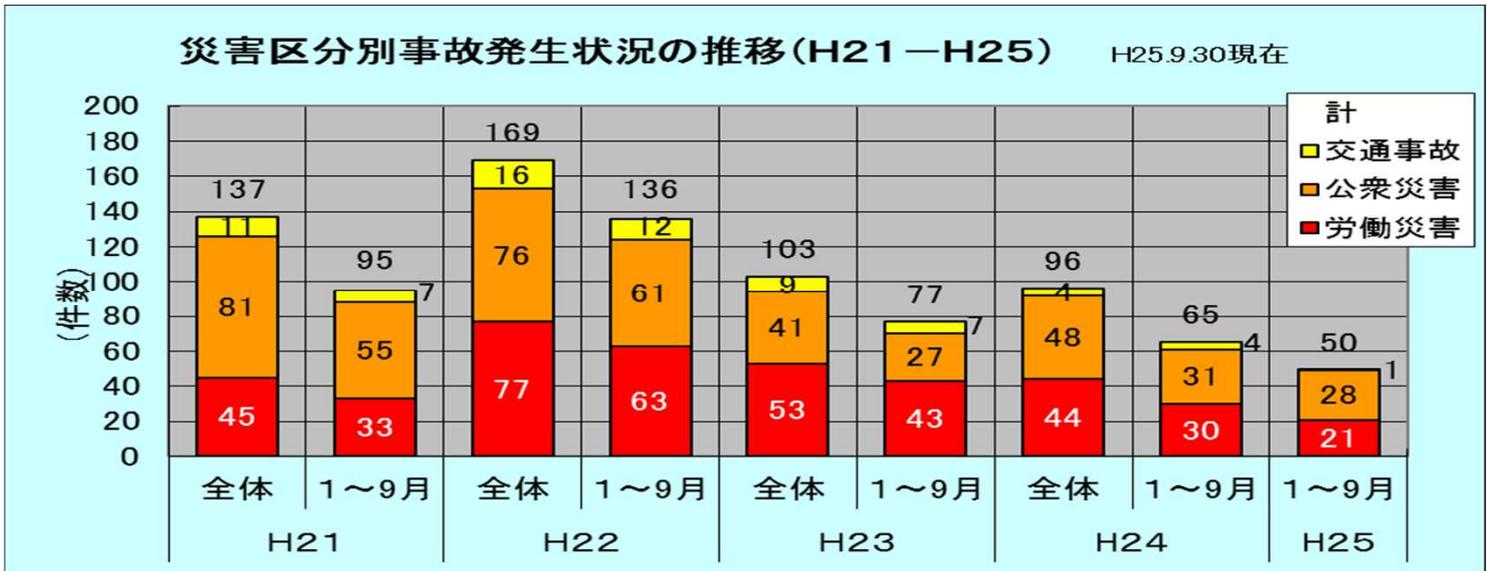
☆公衆災害の発生割合が高い☆

☆特に公衆災害のうち架空線に関する事故割合が高い☆

☆年末に向け、安全管理の徹底を！☆

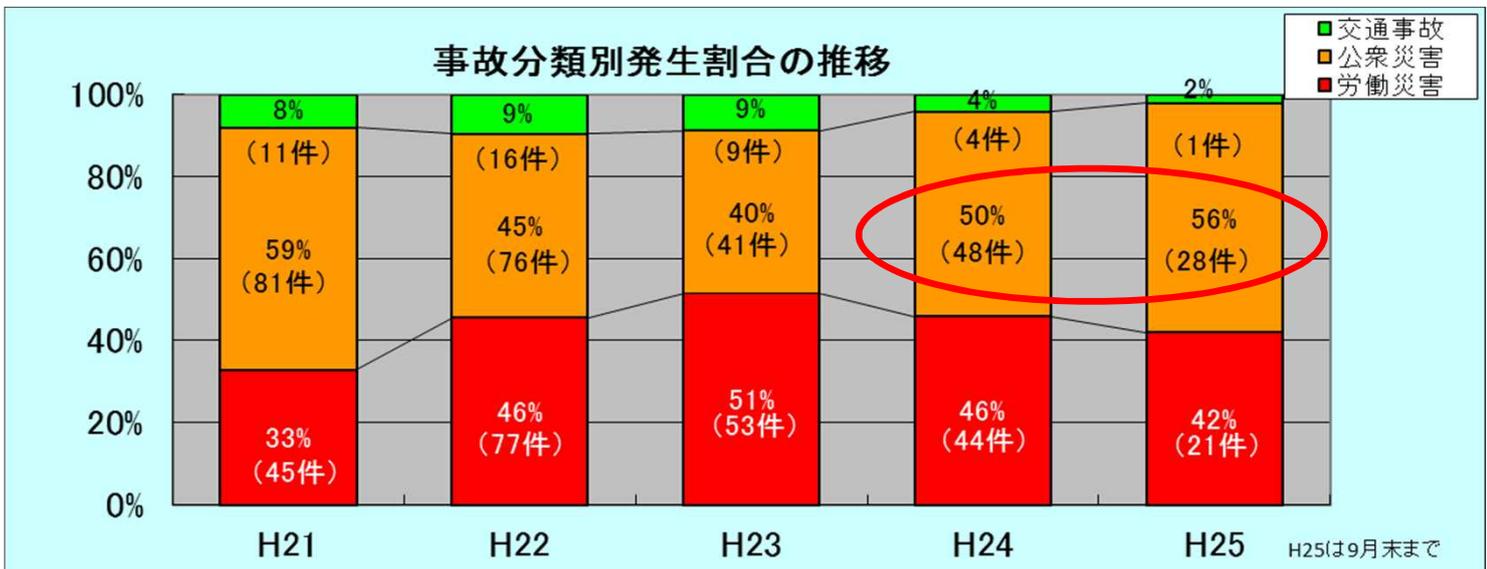
1. 工事事務速報の件数

第3四半期までで50件発生。件数では、過去五カ年で最少となっています。



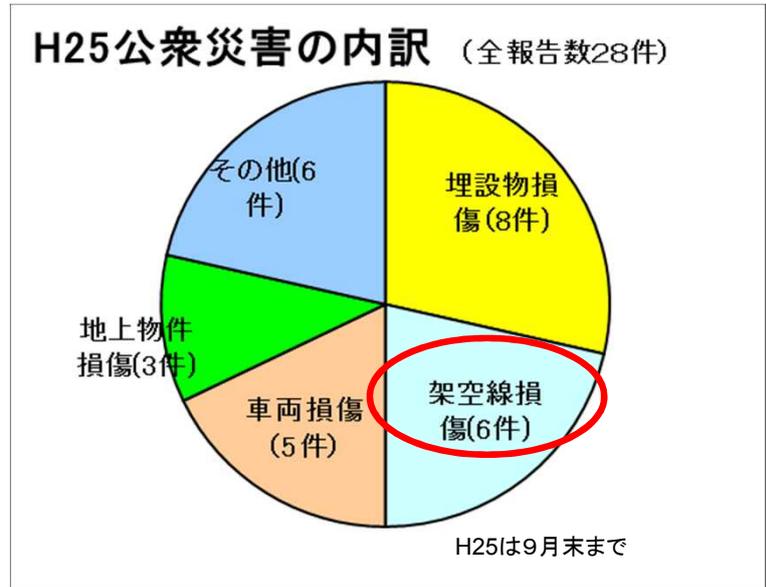
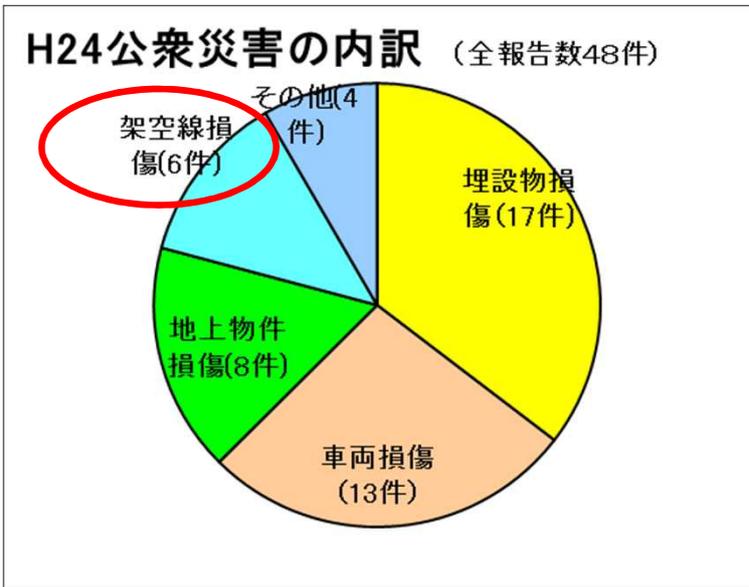
2. 事故分類別発生割合の推移

平成23年を境に労働災害よりも公衆災害の割合が高くなっています。



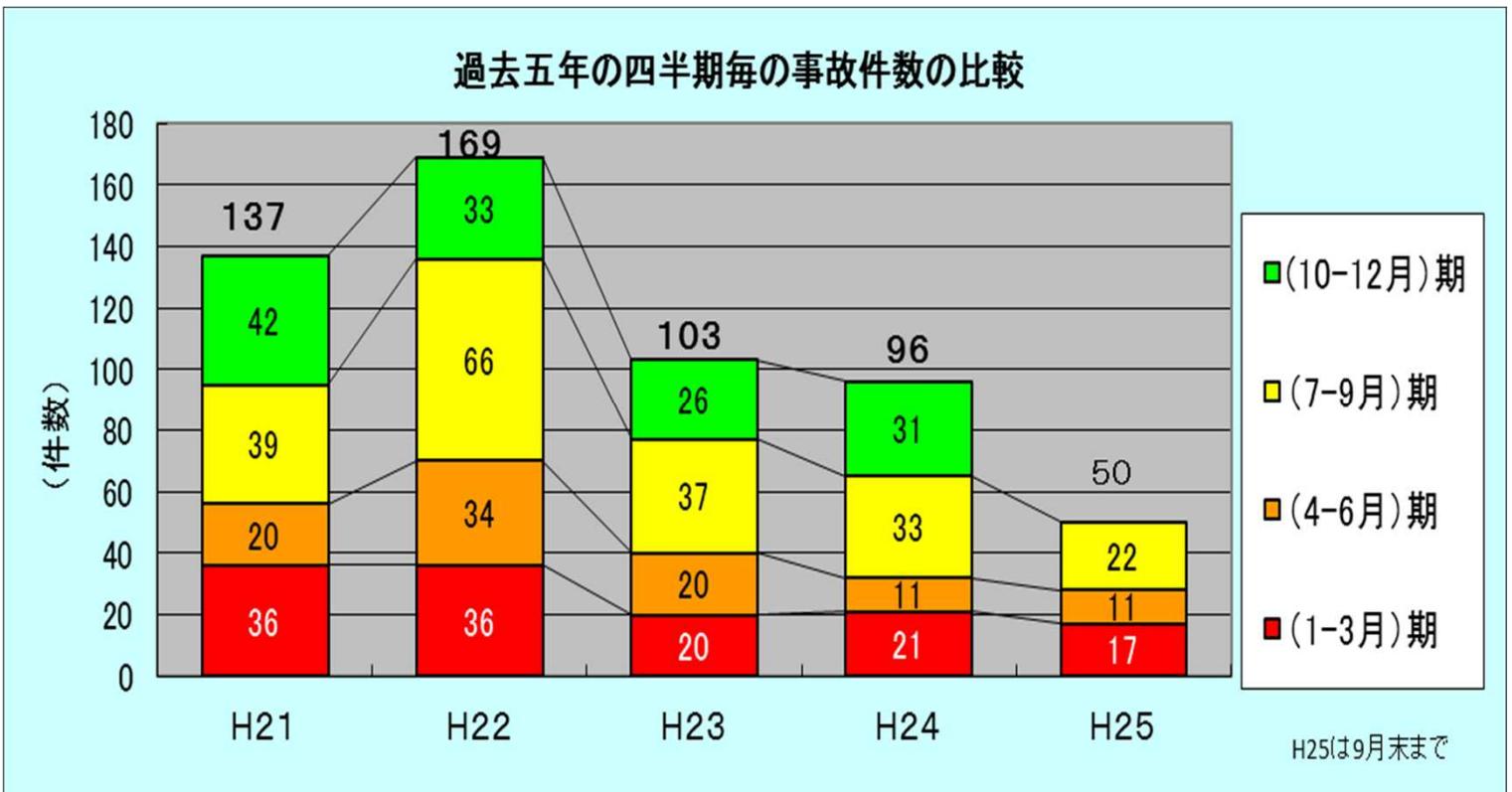
3. 公衆災害の内訳

今年の1～9月の公衆災害の内訳をみると、平成24年と比較して架空線損傷の割合が高くなっており、すでに同数の発生となっています。



4. 各年の四半期毎の事故件数の推移

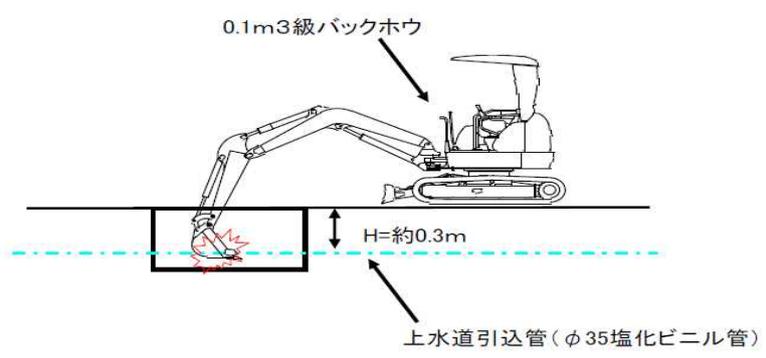
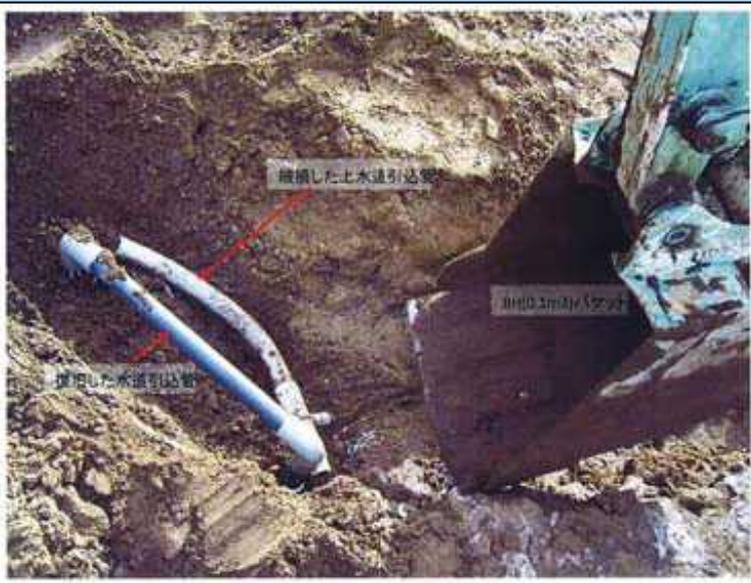
過去の事故発生状況は、第3四半期（7月-9月）及び第4四半期（10月～12月）に、事故が多く発生する傾向にあります。



5. 平成25年発生の事件事例

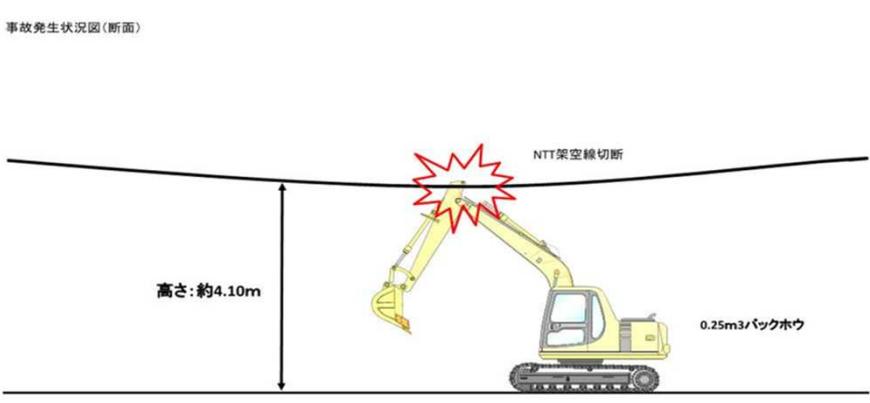
事例-1 埋設物損傷事故：「BH掘削による事故」

- 工事内容：歩道新設工事
- 事故概要：土質試験の試料採取のため、0.1m³級バックホウにて掘削を行ったところ、地下約0.3mの位置に埋設されていた上水道引込管にバケットを引っ掛け破損させた。
- 事故原因：◆埋設位置を現地に明示せず土質試験の試料を採取しようとして、直接バックホウで掘削を行ったため。
- 防止対策：◆現地に明示し、他に埋設物の無いことを確認した後に重機にて掘削する



事例-2 架空線損傷事故：「BH作業による事故」

- 工事内容：道路改良工事
- 事故概要：橋梁の橋面舗装準備工の為、橋梁に敷いてある土砂をバックホウ(0,25m³)にて撤去しており、手元と誘導確認の作業員3人で作業を進めていた。土砂掘削旋回時にバックホウのブームが架線に接触し、同線を切断した。
- 事故原因：◆事前に架空線の位置は把握し、作業前の打合せ、ミーティングで架空線について特に注意するよう指示を受けていたが油断し接触切断してしまった。又、架空線明示の注意喚起が不十分であった為。
- 防止対策：◆架空線下に目印旗の付いたロープの設置
◆注意喚起ののぼり旗の設置
◆作業標準書の見直し・安全教育時の事件事例紹介、笛の合図による訓練



6. 労働安全衛生規則の一部改正について

労働安全衛生規則の一部を改正する省令(平成25年厚生労働省令第58号)が平成25年4月12日に公布され、車両系建設機械関係は平成25年7月1日から施行されています。今回の改正は、鉄骨切断機等の建設機械について、この使用に起因する死傷災害が多発していることから、安衛法令上の車両系建設機械の解体用機械として新たに規制の対象となり、事業者および製造者への新たな義務がかかっています。

平成25年7月1日から、鉄骨切断機、コンクリート圧砕機、解体用つかみ機(以下「鉄骨切断機等」という)は、労働安全衛生法令(安衛法令)上の車両系建設機械の解体用機械として、規制の対象となっています。

これまで鉄骨切断機等は車両系建設機械には該当せず、安衛法令は適用されませんでした。休業4日以上死傷災害が年間100件以上も発生しており、死亡災害等の重篤な災害も起こっていることから、対象とすることとしました。

規制対象となる鉄骨切断機等

鉄骨切断機
(鉄骨を切断)



日立建機株式会社製
建設業労働災害防止協会(建災防)提供

コンクリート圧砕機
(コンクリート構造物を砕く)



日立建機株式会社製、同社提供
(上写真右はコンクリート圧砕機(大割)・左は同(小割))

解体用つかみ機
(木造工作物を解体)



キャタピラー・ジャパン株式会社製
同社提供

厚生労働省リーフレットより

※明るい年末・年始を迎えるために、適切な安全管理に取り組みましょう。

【問い合わせ先】 北陸地方整備局 企画部 技術検査官 飯野

TEL 025-370-6702

FAX 025-280-8861